



# いのちと愛について

教皇パウロ六世が、一九六八年の回勅「フマネ・ヴィテ」で、世紀初頭まで全てのキリスト教会に共通していた、人工避妊反対の伝統的なキリスト教の教えを再び主張したのは間違いだつたと、多くのカトリック教徒は本当に信じています。しかしながら、教皇は二つの点で正しかったと言えるかもしれません。それは、夫婦愛の尊厳と美しさに関する点と、避妊中心の考え方と自己中心主義の非常に現実的な結果に関する点です。

ピルが広く使われるようになってきたことが、オーストラリアや西洋諸国で性革命が始まるきっかけとなり、そのことが、中絶や、結婚の破綻や、シングルマザーや、ホームレスの子どもの数の増加をもたらしました。手軽なセックスのもたらしたこれらの暗い影の部分は隠され、一方、性そのものは映画や雑誌や広告の中で絶えず品位を落とされ、潜在的な不信感に悩まされている若い男女は、一生無条件にお互いに契り合う気持ちがいかに失せているのです。人によつては、キリスト教会に同性愛者の活動を正当化し、同性の者同志の結婚を祝福するように求めているケースもあります。今は悲劇

的なエイズが流行しています。性の領域においては、現代を象徴するできごとによつて、パウロ六世の未来への悲観的予言の正当性が今立証されています。しかし、当時は、旧約聖書の本物の預言者のように、そのような予言をしたために、教皇はあざけられ非難されたのでした。

約35年前に出版された、人間のいのちに関する教皇の回勅、「フマネ・ヴィテ」は、おそらく歴史上最も有名で、しかも最も理解されていない回勅でしょう。その発表は、学者の間にも一般大衆の間でも、旋風を引き起こし、それからの数年間でピルは人類史上最も広く認められた医学の進歩の一つになったのです。化学薬品の副作用に対する私たちの科学的な知識は増え、生態系の問題に対して私たちがますます敏感になっていくにもかかわらず、依然として状況は変わっていないのです。

パウロ六世は、責任ある親になることを奨励しました。教皇は、夫婦は何人子どもを持つべきか、どのくらい年齢をあげるべきかを、彼らの肉体的、経済的、心理的、社会的状況や、さらには神や、自分たち自身、家族、社会に対する務めを

考慮に入れて、決めなければならぬと教えました。そして、教皇は、体と結婚との関係への介入をもたらずピルなどの人工避妊の家族計画法を拒否し、セックスをすることはいのちに開かれていることであることを明確にしました。

パウロ六世はまた、世論のプレッシャーや政府権力によつて、人々が避妊や避妊手術や中絶さえも強いられるようになるかもしれないと予見しました。このようなことは中国などの国においては、公然とした事実となつていますが、我が国においても、友人や家族や職場の状況によつて、家族数を増やさないように言われていると、私に話してくれる夫婦もあります。

一九六八年以来、夫婦愛の神聖さに関する教皇の教えが励みとなり、医学研究者たちによつて、有害な薬や手術や人工的な器具を使わずに受精能力を管理するための夫婦の知識が増えてきました。ここ35年の間に、自然な家族計画の分野で大きな前進がみられました。しかし、残念ながら、多くの人はそのことを知らないために、実際は非常に有効な方法なのに依然として否定的な考えを持つていてるので

WHO(世界保健機構)は、夫婦に受精しやすい時期を簡単に教えることができることを実証しました。この情報は、夫婦が、不妊の際や、妊娠を避ける時に役立ちます。女性には、妊娠する時期と妊娠しない時期の見分け方を教えられ、その結果、セックスするのに適した時期を選ぶことができます。女性たちは排卵や月経の始まりを予見でき、不規則な周期中も、授乳中も、ピルの使用後も、更年期に近づいているときも、いつ妊娠しなくても、妊娠しないかを監視することができ、自然な家族計画の進歩は、夫婦愛や人体の健康を尊ぶ気持ちを維持することに役立ってきたばかりでなく、女性が自分の身体が子どもを作ることが出来る状態にあるかどうかの決定をしたり、自信や自尊心を高めることに、大きな役割を果たせるような力を与えてきたのです。私たちはこの分野における二人の発見が世界的に認められているメルボルンの医師、ジョン・ピリングズとエブリン・ピリングズ夫妻に負つてゐるべきです。

カトリック教徒の多くは、「フマネ・ヴィテ」のことを、カトリック教徒が避妊をすることを禁止した回勅だという評判だけで判断しているのでしょうか。したがって、教皇パウロ六世の主張をじっくり考え

てみることはよいことです。しかし、商業上の利益のために社会に押しつけられている、新たな無神論的な性や結婚や家族に関してのあり方を検証することも同様に重要なことです。家族は今の方が幸せでしょうか？より多くの若者が幸福でしょうか？「性革命」が邪魔されずに進み、若い若きも、ますます多くの者が傷つくままにしておいて私たちがよいのでしょうか？どうすれば、愛情に満ちた、責任のある性の営みを護るための戦いにもっと多くの若者を募ることができるでしょうか？いつになったら、もうそれで十分だと言えるのでしょうか？

ジョージ・ベル  
(メルボルン大司教)

# なお続くインドの女児殺し

インドでは、胎内胎外を問わず、女の赤ん坊を殺すことは法律で禁止されているにもかかわらず、国のいくつかの地域で依然として広く行なわれています。

ある研究によると、毎年ほぼ一〇万人の女の赤ん坊が殺されていると推測されます。このような現象の原因は、男性支配の社会において女性が「抑圧されている」「せいであると社会学者は考えています。

「わが国のような『男子が好まれる』社会においては、誕生から墓場にいたるまでの女子の人生航路は、いやなこと連続です。胎児殺しや女児殺しのような根深い社会悪が依然として広く行なわれている状況では、女子にとって、将来すぐに良くなるというものではありません。」と、ソーシャルワーカーのアンジュ・グプタは語っています。

女児殺しとは、親が男子を好むために女の赤ん坊を意図的に殺すことです。有毒な粉末肥料や乾燥した脱穀していない米を食べさせられ、それが原因で気管に穴が開く赤ん坊もいます。窒息させられたり、首を絞めら

れたり、ただ餓死するままにされる赤ん坊もいます。

ソーシャルワーカーがある出来事について語ったところによると、20代初めのマラティという若い女性は、三人連続して女の赤ん坊を出産したとき、口を開こうとしませんでした。彼女の義理の両親と家族は彼女に腹をたて、恥を知れと彼女に言ったのです。マラティは女の子を望んだわけではありませんでした。二人の望まれない女の子の若い

女の子の地位が低いためにいのちを失って行く。将来結婚出来ない男性が溢れるのではないのでしょうか。



不遇な母親は、自分を待ち受けているものが分かっていたのでした。

バルバティというもう一人の母親にはすでに娘が一人いました。だから二人目の女の子を出産したとき、彼女はその女の子を育てることを拒否しました。「その幼な子がお腹を空かせて泣く声を黙らせるために、貧しい村のその女性は、夾竹桃の樹液を搾って、それに機械油をまぜ、その有毒な液体を赤ん坊の喉にむりやり流し込んだのです。」と、別のソーシャルワーカーのムニヤンマは話してくれました。

インドの女子への偏見は、「男子」は収入をもたらずと考えられている事実と関係があります。畑仕事のほとんどをするのは男子です。「このようにして、男子は一種の保険として当てにされているのです。」

「このような考え方に基けば、男性に高い価値を置くことによって、女性に与えられる価値が下がることはより明らかになることとなります。」

問題はまた持参金の制度、つまり花嫁の家族が、嫁ぎ先の家

族に多額のお金を支払らなければならぬという制度とも関係があります。形式的には違法なことですが、その制度はまだ広く行き渡っているのです。

「持参金と結婚費用と女性の低い地位とを合わせて考えると、インドの貧しい家族が男の子だけを望むのも無理もないように思われます。」と、社会学者のヴィーナ・シンは説明しました。

一九九一年の人口調査によれば、インドの国全体の男女の割合は、男性千人に対して女性九二九人でした。七つの州の54の地域では九〇〇人を下回っていました。初めて人口調査が行なわれた一九〇一年には、男性千人に対して女性は九七二人でしたが、それ以来女性の割合は着実に減り続けています。一九三一年までには、男性千人に対して女性は九五〇人にまで減少し、さらに、一九八一年までには、九

三四人まで減少しました。次の人口調査は来年行なわれる予定です。一九九一年の人口調査と、国民全体の出生率と人

(3ページへ)

口と男女比に基づいた研究で、計算上毎年平均一〇七二〇〇〇人の女の子が殺されていることになりました。

アメリカ合衆国とヨーロッパを含む世界の他の地域では、女性の数が男性の数を約四%上回っています。それと対照的にインドと中国では、男性の数が女性の数を七%上回っているのです。

「今日このように男女比が非常に違っている理由は、主に人々が自分たちの娘を間引いているからではありません。それは人々が超音波診断を受け、もし胎児が女の子だとわかると、中絶することに決めるからなのです。この科学技術が、人類史上前例のない程の女児殺しが蔓延する原因となっているのです。」と、社会学者のA・N・ヴァーマは言っています。

インドでは、胎児の性別による中絶の原因となる、男女を見分けるための超音波診断は違法とされていますが、超音波診断装置が導入されてから、女の子の殺される数が劇的に増加しました。

男女を見分ける技術の乱用が蔓延してきたために、政府は、遺伝的な異常を見つめるためだけにしか出産前の超音波診断を認

めない法律を制定しなければならなくなりました。その法律には次のように書かれてあります。「何人も胎児の性別を見分ける目的で、この出産前の診断技術を行なってはならない。この出産前診断技術を行なうものは何人も、言葉や合図や他のいかなる方法によっても胎児の性別を伝えてはならない。」

しかし、法律専門家は、この法律によって、有罪になったものは一人もいないと言っています。「書かれた検査報告書がないので、胎児の性別を見分けるためにその方法が用いられたかどうかを証明することはほとんど不可能なのです。」(それは医者がかみならずその結果を口頭で伝えるからです。)

しかしながら、一方、開業医の中には、排卵期をチエックし、それによってセックスする時期を選ぶことを含めた「自然な家族計画」を夫婦にアドバイスしている人もいます。この方法を夫婦に教えることで、女性を大切にすることを伝えるためです。

「考え方を法律で規制することはできません。教育の向上と生活水準の向上しか、社会に女の子に対する考え方を変えさせようする方法はないのです。」と社会学者のシンは主張しています。

プロライフ インフォネット 2000.7.7.

## ケニア、国際的圧力を受け中絶の合法化を検討

ケニアでの中絶合法化を示唆する政府報告書が提出された。ヘルス・スタンダード・アンド・レギュラトリー・サービス局によって任命されたチームは、「中絶禁止法を維持するために今まで考えられてきた倫理のおよび法的必要性」よりも、「中絶の合法化を必要とするだけの」社会のおよび医療的状況証拠の方が上回っていると主張した。

ナイロビのザ・ネーションは、この報告書は妊娠中絶支持を得るために、典型的な不法堕胎の例などを巧みに取り上げ、中絶の合法化を求めることを正当化している」と述べている。報告書の中では、「この提案は、国際的な流れと一致している」とも言及している。この報告書の内容についてはムバガティにあるケニア・カレッジ・オブ・コミュニケーションズ・テクノロジーズ・ケーションズ・テクノロジーズにて開催される全国公共医療会議で討論される予定である。

さらなる人口増加を抑制するために、ケニアでの中絶や避妊を認めさせるべく、国際社会は相当強い圧力をかけていた。その圧力が最高潮に達したのが一

九九九年である。そのため、ケニアのカトリック教会はその年の八月に、「国連人口基金は我が国における中絶や避妊、そして性教育制度を確立するように圧力をかけている」と述べている。ニエリ・カトリック大司教管区の長であるニコデムス・キリマコ教は、国際的圧力の深刻さを強調した。セント・メアリー男子中等学校で演説を行なった際、避妊に対する教会の考え方は「例えばコンドーム使用に反対したら殺される」としても絶対に変わらないと語った。キリマコ教は性的禁欲の重要性を力説し、「責任能力がなく、道徳心のない若者の歯止めを解いてしまつ性教育」はさらなるエイズの蔓延を激化させるだけであると述べた。

ケニア人は、この国際的圧力のマイナス側面での影響を嘆いている。ファミリー・ライフ・カウンセリング協会の執行役員およびHIV陽性患者孤児のためのコットレンガ・ホスピスの医療理事であるマーガレット・オゴラ博士は、「30%もの失敗率」のあるコンドームを何百万個も配布した結果、この国に病気を

もたらしただけでなく、男女の乱交はいけないと言つ非常に難しい問題まで犯してしましました。」と語った。一九九九年十一月にジュネーブで開かれた世界家族会議でも、「西側諸国による宣伝は、コンドームを付けての性行為は「安全」という間違つた認識をアフリカの若者に植え付けてしまった」と述べている。「彼らがエイズに感染していることを告げると、不信感とショックを隠し切れない様な状態になります。私は胸が張り裂けそうになります。彼らは、でも安全なはずだったのに！」と言つのです。」とオゴラ医師はインタビュで語った。

LSN.ca 2001.10.4.

アフリカの若者にエイズが蔓延している。避妊具のコンドームを信用したばかりに。



# 人口抑制と新しい世界規模の人種差別主義

人口抑制を唱える人々の、「生殖に関する権利」計画は、表向きは「性の平等」の促進を目標にしています。実際には「家族計画」の名において発展途上国の人口を減らすことにねらいを定めている、と政治学者のメアリー・ミーニー・ヘインズ博士は言っています。（「最新の言い訳」、PRレビュウ、一九九九年十月〜十二月）

（マーガレット・セインジャー「文明の回転軸」ニューヨーク：プレントノ出版社、1982年）

この「新しい世界規模の人種差別主義」、これは普通今日の女性権拡張論者がよく使う言葉の陰に隠されているものですが、それが最近ブリュッセルでのヨーロッパ議会の前に行なわれたCZPPA（国連人口基金）の打ち合せ会で表面化し、その場で人口統計学者のヤン・フランセンは、アフリカで流行しているエイズが人口抑制の手助けとなつていると発言しました。

前CZPPA代表のフランセンは、ヨーロッパ議会の議員たちに、アフリカの人口増加は、実際に、アフリカの人口増加は、死亡率を上げることによって抑制することができると言いましたが、そのようなスタンスで公然と運動をできる政治家はいないと警告をしました。フランセンは「受精制限」を代替案として提示し、付け加えてこのことは、「一九六九年以来CZPPAの仕事であった」と言いました。（オースチン・ルース「CZPPAの打ち合せ会でアフリカの高い死亡率が軽視される」一九九九年十月十五日、

最近、人口抑制を唱える人々は同じ目的を達成するために、スローガンとして「リプロダクティブライツ」を採用しました。「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱えるグループは、『女性の権利』と『リプロダクティブヘルス』の横断幕掲げて、発展途上国における大きな『満たされぬ需要』を満たすためには、家族計画が絶対必要であると主張しています」が、実際そのような事実は存在しないとヘインズ博士は書いています。

「FAM、フライデイファックス」フランセンはまた、地球の最大飽和密度は七億人から十億人の間だという極端な発言もしました。

一九六八年、優生運動は、第二次大戦後はホロコーストに対する人々の怒りのために、公的な声明において警戒の度合いが強くならざるをえませんでした。その失われた体面のいくらかを取り戻した。」と、ヘインズは、ポール・アーリッチの「人口爆発」の中に端的に述べられている人口抑制運動のための「選択」という最後の審判の日の隠喩」を利用して書いています。

大規模な飢饉と資源の枯渇というアーリッチの予言は、時間がたつてあたっていないことがわかりました。一九七〇年代から一九八〇年代を通して、人口増加の速度が落ち、あいつつて世界的な豊作、汚染の減少、経済の発展、GDPの拡大が起こりました。一九九〇年代の初期には、中絶や避妊手術を強制することは、人口抑制を唱える人々が目標数字や割り当てを活用することと密接に結びついていました。

最近、人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

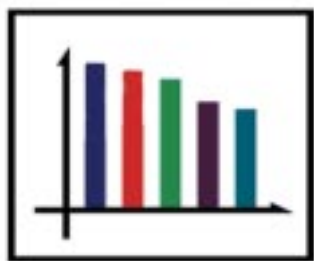
「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

「人口抑制を唱える人々の主張は、時と状況とともに変わりますが、『解決策』は驚くほどに変化のないものです。つまり、発展途上国より貧しい、無知の国民に対してもっと人口抑制の矛先を向けることなのです。」とヘインズは書いています。

アフリカの人口減少の裏にあるものは何？



PRI Weekly Briefing



# 資料紹介

## カラーパンフレット

【204】

### 【最後の関係を結んでしまったあなたへ これから一体、どうするの？】

\*カラーパンフレットは組合せ自由です。沢山購入して頂いた場合はお安くしています。右下の価格表を参考にお申し込み下さいませ。\*

朝日新聞の7月24日に東京都の幼稚園・小・中・高等学校性教育研究会が3年ごとに行っている性意識・性行動のアンケートの今年の結果が発表されていました。それによると3064人を対象に行った結果、高校3年生の女子45.6%が『性交経験済み』と答えていました。

そして、性交時に避妊をしたかどうかを尋ねているけれど、本当はもっと別のことを話し合うべきではないでしょうか。

このパンフレットはそのような話し合いの場所で役立つことでしょう。

パンフレットには、なぜ最後の関係を結んだのか？その後どう思っていますか？との問いかけにそれぞれ9人の人が答えています。そして、これからセックスを続けるか止めるか、二つの選ぶ道があることを示し、もし続ければ、8つもの危険があり、もし止めれば、3つの良いことを得られると教えています。最後に止める事を決心したら、4つのことに気をつけよう！と結んでいます。

性交経験済みの若者が多くなったから、避妊を則教えなければと言うのではなく、大人になっていくために本当は何が大切なのかを考える材料にこのパンフレットを是非使ってもらえればと思います。

### 最新のビデオ [412] ユースセミナー7

説明文はプロ・ライフニュース 『ポルノの害毒』  
2002年7月号6ページ 3800円+送料

### [511] 赤ちゃん：最初の十ヶ月の旅 [515] 経口避妊薬：ピル

注文： 1 - - - - - 5 1部 = ￥100  
6 - - - - - 20 1部 = ￥75  
フルカラー 21 - - - 999 1部 = ￥50  
1000 - - 以上 1部 = ￥35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

(5ページから)  
 婦愛から切り離すことは、「二人を一つに結ぶ」あの聖なる交わりを単なる肉体的活動に引きずり下ろしてしまいます。もし私たちが自分たちの体を単なる生物学的物質であると考えらるなら、人間は社会の善のために生産され、中絶され、去勢され、「眠りにつかされる」進化の連鎖による産物に成り下がってしまっているのではないかと思うのです。  
 しかし、もしわたしたちが結婚に肉体的、霊的、道徳的健康を取り戻すことができたならこの傾向を逆転させることができます。夫と妻が愛、生命、性を再び結び合わせるために自分たちの体に備わる自然な生理に協力し始めるとき、彼らの結婚は神が創造されたもつとも深遠な愛の行為に伴う人間にふさわしい聖性を取り戻します。そうすれば、結婚は私たちが家庭と文化を、神に似せて創造された人格にふさわしい生命と愛の共同体に変貌させることができるようになります。  
 (シンディー・オムリン)

### 【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文 ..... 無料 ..... + 郵送料

### 【カラー・パンフレット】

[201] 生か死 ..... + 郵送料  
 [202] 第二の処女生 ..... + 郵送料  
 [203] デート ..... + 郵送料  
 [204] どうするの? ..... + 郵送料  
 [205] "NO"という技術 ..... + 郵送料  
 [206] ティーンの出産コントロール ..... + 郵送料  
 [207] バージンの瀬戸際 ..... + 郵送料  
 [208] していましたか ..... + 郵送料  
 [209] 親権限と「10代の性」 ..... + 郵送料  
 [210] 貞節のすすめ ..... + 郵送料  
 [211] 中絶行為は女性を解放しない ..... + 郵送料

### 【ポケット・サイズ】

[301] 若い生命「1セット=カード+人形」 .....30円 + 郵送料  
 [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン .....200円 + 郵送料  
 [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス .....500円 + 郵送料  
 [305] 胎児の人権宣言カード .....30枚=100円 + 郵送料  
 [306] ミニソフィア Ace エース(税別) .....7980円 + 郵送料

### 【ビデオ+ 本・日本語】

[401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta) .....7000 + 郵送料  
 [403] ビリングス・メソッド .....(VHS/Beta)....7000 + 郵送料  
 [404] いのちーおくりもの .....(VHS)....13000 + 郵送料  
 [407] 命美しいもの = one&only .....(VHS)....20000 + 郵送料  
 [409] 聞こえる? 天使の鼓動 .....(VHS)....6000 + 郵送料  
 [410] ビル先進国・英国からの警告...(VHS)...15000 + 郵送料  
 [411] (ユース・セミナー) イーズ時代の性倫理...(VHS)...3800 + 郵送料  
 [500] (本) 生命問題に関する...(カトリックの教え)...2987 + 郵送料  
 [501] (本) 自然な家族計画...(ビリングス・メソッド)...1000 + 郵送料  
 [503] (本) プロ・ライフの旅 .....300 + 郵送料  
 [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ .....1200 + 郵送料  
 [505] (本) いのちをみつめて .....500 + 郵送料  
 [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ).....660 + 郵送料  
 [507] (本) 私の生命を奪わないで .....2300 + 郵送料  
 [508] (本) いのちの福音 .....1500 + 郵送料  
 [509] (本) 小さき生命のために .....1300 + 郵送料  
 [511] (本) 赤ちゃん：最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料  
 [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて .....300 + 郵送料  
 [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント .....500 + 郵送料  
 [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう .....300 + 郵送料  
 [515] (本) 経口避妊薬：ピル .....100 + 郵送料  
 [516] (本) いのちの福音と教育 .....1470 + 郵送料  
 [517] (本) フマネ・ヴィテ .....300 + 郵送料

### (本) フマネ・ヴィテ

1 - - - 30 1部 = 250円  
 31 - - 100 1部 = 200円  
 101 - - 以上 1部 = 150円

### パンフレット申し込み

1 - - - 5 1部 = 35円  
 6 - - 100 1部 = 25円  
 101 - 500 1部 = 20円  
 501 - 以上 1部 = 15円

組み合わせ自由です



## 会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千円 一千円

無料: 毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さい命を大切に育みましょう。

## 御送金

銀行：四国銀行朝倉支店  
口座番号：0573553  
日本プロ・ライフ・ムーブメント  
郵便局：「郵便振替」  
現在口座番号：01660-5-39607  
日本プロ・ライフ・ムーブメント

### 事務所たより

木々の葉っぱが黄色や紅色に色づく秋です。皆様お元気で過ごしてでしょうか。

先日、無記名の方が、このプロ・ライフ運動のために寄付を送って下さいました。時々切手を無記名で送って下さったりする方もおられます。そのような方々にお礼のお便りを同封することが出来ませんが、この場をかりて、お礼申し上げます。有難うございました。

湯舟にたたえた水がざーっと溢れるように毎月、切手代や印刷費に費用がかかって行きます。現代社会の傾向である楽しみだけを追い掛ける性行動、それに伴う避妊教育、そして失敗すれば中絶…今、いのちが受難の時代です。そのような社会へ警報を鳴らせつつ、健全な性教育を若者達に！と頑張っているこの運動に是非皆様の金銭的御支援をお願い致します。

また、『沈黙の叫び』などのビデオを贈ったり、カーパンフレットや『赤ちゃん：10ヶ月の旅』などを多数購入して、学校や寮に寄付して活動して下さっている方々もおられます。どこそこに送って下さいと言って下されば、事務所より直接お送りすることも出来ます。

8月17日の毎日新聞によりますと、国内の医療系学生の7割以上がクローン人間づくりを「好ましくない」とする一方、不妊治療目的に限れば半数が認めてもよい」と考えていることを明らかにしていました。彼ら、彼女らが社会人になった時には、不妊治療の結果、この地上にクローン人間が溢れるようになるのではないのでしょうか？

尚、教会等へお送りしておりますこのニュースを掲示板にはったり、皆様が手に取れるところに置いてこの運動をPRしていただければ有り難いです。活動と金銭的なご支援をどうぞお願い致します。

日本プロ・ライフ・ムーブメント

(7ページから)

てから、ということである。その期間とは、脳波が認められるようになる妊娠40〜43日目以降と言う人もあれば、廻りの環境を感じ出来るようになる妊娠10週目以降だと言う人もあり、意識が芽生え問題解決能力を持ち、コミュニケーションも可能になる誕生後だと言う人もいる。

イースターウッド氏は信徒達に、人間を区別する事には二つの欠点があると云っている。一つは、いのちの始まりがいつかという問題が自由に解釈され得ること、もう一つは、人間の値うちをその人がすることによって決められることである。

イースターウッド氏は、歩けない、話せない、観念的に考えられない、又は意識の無い大人と、胎児とを比べている。「そのような大人をいつか目を覚ますかもしれないと祈って、私達は、何年間も生命維持装置を使って生き存えさせて、どんな出費でも惜しむことはないが、しかし目を覚ます可能性は、健康な赤ちゃんが通常の妊娠を得て出産される可能性より、多くの場合少ないのである。」

イースターウッド氏は又、生きて欲しいと両親に望まれた胎児を救おうとする医療的熱意と、中絶を考えている両親を持つ胎児へのそれとを比べている。

「私達の考え方がいかにねじれているかをよく表わしているのだが、現在の

医学では、人間の赤ちゃんは妊娠5カ月目からなら子宮の外でも生きていくようになる。それは妊娠20週目頃である。そしてメリーランド州では妊娠26週目までは中絶を許可しており、ニューヨーク州は24週目まで許可している。ということは、こっちの病院ではあるいのちを助けようと医師達が熱心に治療に当たっているかと思えば、同じ街の反対側の病院では別の医師が、救われようとしている赤ちゃんよりも大きく育っている赤ちゃんを中絶しようとしていることになる。」

イースターウッド氏はその説教の一つの質問で締めくくった。「ある十代の女性が未婚で妊娠し、危機的状況にいる。彼女が婚約している男性は、お腹の子の父親ではない。彼はショックを受け、婚約を白紙に戻すことを真剣に考えている。そうすると、彼女は何の経済的支援もなく、地域社会から追放されてしまう。あなたはそんな彼女に中絶を勧めるだろうか？もし勧めるなら、あなたはその瞬間、イエス・キリストを殺したことになる。」

ロビン・シートン・ジェファソン

### いのちのはじまりを



知らない人はいない